

## 第3回県西地域懇談会

# ジオパークで地域活性化を推進！

### ～世界に誇れるジオパークへ～

2月29日（水）、湯本富士屋ホテル（箱根湯本）にて第三回県西地域懇談会を開催した。『ジオパークで地域活性化を推進！』と題し、降雪の天候の中、約80名が集まった。冒頭、高橋会長より、ジオパークを核とした箱根等の地域と、横浜・鎌倉といった神奈川県屈指の観光スポットが連携して、観光をより活性化させることが必要で、それを実現するために、地域横断的なチーム作りをする必要がある、等の挨拶があった。

#### 【基調講演】

##### 「箱根ジオパークを目指して」

箱根町長 山口 昇士 氏

ジオパークとは、「地球の活動と人の暮らしのかかわりについて楽しく学び、体験することができる大地の公園」。箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町の1市3町の行政、商工会、観光協会や地元企業やNPOなど64団体により、「箱根ジオパーク推進協議会」を設立。PRイベントや、ガイドの養成、名所を歩くジオツアーや展示会の企画、オリジナルグッズの開発などを進めており、今年3月に、日本ジオパークに申請、5月にプレゼンテーションを実施し、10月頃の認定を目指している。

##### 「ジオパークで新しい箱根を」

神奈川県立 生命の星・地球博物館館長

齋藤 靖二 氏

1992年の環境サミットにおいて「生物多様性条約」が採択され、その具体化として、ジオパークが提唱された。2004年にヨーロッパや中国により、世界ジオパークネットワークが設立され、その後、2008年、日本地質学会を中心に日本ジオパーク委員会が設立された。

箱根周辺は、火山の博物館と言われ、温泉の宝庫である。また豊富な石材資源があり、秀吉の一夜城や江戸城などでも使われていることで有名である。また、文化面では、ミュージアム連絡会が設立されており、多種多彩なミュージアムの連携を深める活動をしている。今後は、滞在型の観光に繋がるような活動にしていく。

#### 「ジオパークと観光地づくり」

立教大学 観光学部教授 安島 博幸 氏

観光地は、継続して新たな価値を創っていく必要があり、ジオパークもその一つであると言える。しかし、単に経済活動（地域振興）の一環としてのみ捉えるのではなく、地質遺産としての本質を認識し、難しいことを優しく解説し、子どもたちのみならず、大人にも関心を持ってもらうようにすることが大切である。そして、それを実行するための“地域プラットフォーム”（枠組み）を作り、例えば、ノルディックウォークと地産カフェのコラボやジオツーリズムなど、継続して価値を創り続ける役割を担うことが必要である。

#### 【パネルディスカッション】

司会：安島 博幸 氏

パネリスト：山口昇士氏、齋藤靖二氏、

津田和英氏（ホールアース自然学校）



パネルディスカッションでは、ジオパークに期待すること、実現に向けての課題、今後どのように活動していくか、について、それぞれの立場からパネリストにご意見を戴いた。ここから登壇した津田氏からは、ジオパークの認知度を上げるための体制づくりの必要性や、例えば火山岩の粉を生地に入れ込んだTシャツなど、地域の特色を生かした特産品づくりの提案があった。

最後に地域活性化委員会・小沢委員長より閉会の挨拶があり、シンポジウムは滞りなく終了した。また、シンポジウム後に開催した交流パーティーでは、多数の方が参加され、ネットワーク構築や情報交換が行われた。